

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解	介護保険サービス（居宅、施設）や介護保険以外のサービスの内容をできる限り具体的に取り上げてイメージを持たせる。	(1)-①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	事例検討などを行い、介護職が働く現場や仕事の内容、資格についてなど、できる限り具体的に理解する。	(1)-②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護	利用者の人権と尊厳を守ることの重要性を、その背景となる哲学(考え方)や制度(しくみ)・法律とともに学習する。	(2)-①
	②自立に向けた介護	具体的な事例を複数示し、グループ討論を通して自立支援や介護予防について理解を深める。また残存機能の活用について考える。	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	利用者に関わるさまざまな専門職や家族、地域の役割を理解し、多職種との連携の方法について学習する。	(3)-①
	②介護職の職業倫理	介護従事者に必要とされる倫理観について学び、事例を用いてグループで意見を出し合い考える。	(3)-②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護サービスを提供する際に安全を確保するための事故への備え、環境整備などリスクマネジメントの考え方や方法について学習する。また感染予防・対策についても学習する。	(3)-③
	④介護職の安全	介護職員の健康と安全について学習する。介護職のストレスマネジメントを理解し対処法を考える。	(3)-④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度	介護保険制度ができた社会的背景を読みとき、その目的、サービス利用の流れを理解する。	(4)-①
	②医療との連携とリハビリテーション	介護職と医療行為について理解し、リハビリテーションの役割や専門職について学習する。	(4)-②
	③障害者福祉制度およびその他制度	障害者福祉制度を中心に、さまざまな制度を学習し、社会的な支援システムとサービスの内容、利用の流れ等について理解する。	(4)-③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション	講義・演習形式でコミュニケーションの基本技術を学習する。また初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。	(5)-①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	チームによる介護においての、記録やカンファレンス等による情報の共有化について学習し、事例を示して記録方法を理解する。	(5)-②

(6) 老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	加齢・老化に伴う変化や疾病について生理的な側面から学習し、高齢者の介護における基本的な留意点を理解する。	(6)－①
	②高齢者と健康	高齢者に多い疾患や生活習慣病、老化に伴う疾患等について学習し、疾患や障害の基本的な理解を通して、日常における生活支援の留意点を理解する。	(6)－②
(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況	認知症高齢者の行動や心理症状の理解を通して、認知症ケアの理念を学び、共感的な姿勢で関わるケアについて学習する。	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の診断等で用いられる評価法や、障害の状態・原因となる疾患などを医学的に理解するとともに、予防のための対策や健康管理について学ぶ。	(7)－②
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	事例検討を交えながら、認知症の症状である周辺症状を中心に、基本的なケアの方法やコミュニケーションの方法を学習し、介護職員の基本的な姿勢を理解する。	(7)－③
	④家族への支援	認知症の高齢者を支える家族への支援のため、家族介護者の負担の状況を理解し、家族介護者のエンパワーメントを促すような支援方法を、事例を基に検討する。	(7)－④
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考えについて学習し、介護における基本的な考え方について理解する。	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害、精神障害等について各々の疾患や症状を学習し、介護における留意点・介護の基本的姿勢を理解する。	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	障害児・者の家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点について学習し、障害児・者だけでなく家族にも寄り添うことが重要であることを理解する。	(8)－③
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13時間)】		
	①介護の基本的な考え方	介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について学習し、利用者を主体とする介護の意味を理解する。	(9)－①
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、老化や障害の受容、適応について学習する。	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称をはじめ、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官などの基本的な知識を学習し、こころとからだを一体的にとら	(9)－③

		える重要性を理解する。	
【イ 生活支援技術の講義・演習（50～55時間）】			
	④生活と家事	生活支援としての家事サービスの在り方を明確化し、介護の専門職として、実際の調理や洗濯等の家事サービスにおける留意点を学習する。	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	快適な生活を送るために必要な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具(機器)について学習し、事例検討を行う。	(9)－⑤
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	身なりを整えることの意義や目的、整容のために必要な支援方法や技術を、具体的な事例を通して実技演習を行いながら学び、技術習得を目指す。	(9)－⑥
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗の意義や器具を理解し、安全で安楽な介護を行うためのボディメカニクスや移動・移乗方法を、実技演習を行いながら学び、技術習得を目指す。	(9)－⑦
	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理、食事介護の方法を、実技演習を行いながら学び、技術習得を目指す。	(9)－⑧
	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	入浴や清潔保持の意味、入浴環境整備などについて学習するとともに、残存機能を生かしながら安全に気持ち良い支援を行うための方法を、実技演習を行いながら学び、技術習得を目指す。	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識や利用者の心理を学習するとともに、排泄環境整備やトイレ介助の方法などを、実技演習を行いながら学び、技術習得を目指す。	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備やそれに関連する用具、からだのしくみを学習し、グループに分かれ演習・発表を行う。	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	終末期ケアの基礎的知識から、死に至る過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援方法を学習し、グループに分かれ演習・発表を行う。	(9)－⑫
【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】			
	⑬介護過程の基礎的理解	支援を行ううえで最も重要な介護過程の意義や目的など、介護過程の基本的な視点や姿勢について学習する。	(9)－⑬
	⑭総合生活支援技術演習	介護実習を8時間、追加カリキュラムとして訪問介護事業同行訪問を4時間、在宅サービス提供現場見学を6時間実施し、実際の現場を体験、実習する。	(9)－⑭
(10)振り返り (4時間)	①振り返り	介護について再度理解を深め、受講生各自、研修を通じて学んだことや感じたことを発表する。	(10)－①

	②就業への備えと研修 修了後における継続 的な研修	介護職の現場職員の体験談から仕事内容等を具 体的なイメージを持たせ、介護業界で働く意識付 けを行う。	(10)－②
--	---------------------------------	--	--------

